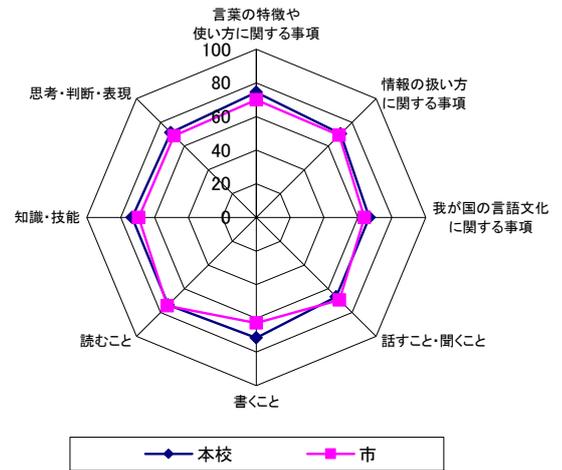


# 宇都宮市立西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	70.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.7	69.5	71.5
	書くこと	71.6	62.8	67.1
	読むこと	73.5	74.4	73.7
観点別	知識・技能	73.3	69.4	71.9
	思考・判断・表現	71.4	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

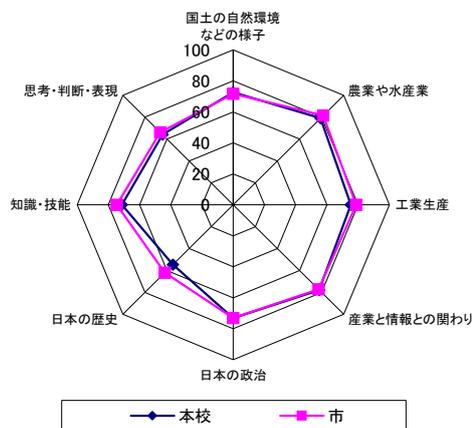
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、ほかの領域よりも高く、市の平均正答率を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○敬語について理解し、正しく使っている割合は、100%であった。言葉の学習の領域は正答率が高い。</p> <p>●第6学年に配当されている漢字を読んだり、第5学年に配当されている漢字を書いたりする正答率が、市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の漢字ドリルやノートの繰り返し学習以外にも、ICT教材の活用を通して、個に応じた学習方法で漢字の学習の定着を図る。</li> <li>・文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使用することができるよう、漢字習得の仕方を工夫させる。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率を1.2ポイント下回っている。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡潔に書く問題は、適切に解答できている割合が高い。</p> <p>○自分の意見と理由を明確にして書くことができている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、整理することについて、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、目的意識をもって文を書いたり、文の要旨をまとめたりする活動を取り入れる。また、文章を正しく読み取るための段落の構成について学習させ、図や表、グラフなどの読み取り方について指導していく。</li> <li>・条件に応じて文を書く機会を意図的に設定する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。</p> <p>○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解できている児童が市の平均を上回っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊敬語や謙譲語、丁寧語の使い方の習得も図っていく。</li> <li>・「宇都宮学」において触れる百人一首の学習から、言語文化についても学びを広げるようにする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を2.8ポイント下回っている。</p> <p>○意図に応じて、質問を工夫していることについては、市の平均を上回っている。</p> <p>●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取ることについては、やや課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や学校生活の中で、話し合い活動を多く取り入れ、話し方の工夫や司会の役割を考えながら、実際の話合い活動をもとに、計画的に話し合いを進めていけるように指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く力が身に付いている。</p> <p>○自分の意見とその理由を明確にして書けている。</p> <p>●目的や意図に応じて、書き表し方を工夫することについては、課題が見られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや条件、目的や意図に合わせて、グラフや表をもとにしたりして、伝えたい内容を整理しながら書けるように、具体的な書き方を提示しながら文章表現力を高めていく。</li> <li>・目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことについては、昨年に引き続き課題が見られるため、低学年から実践していける活動を朝の学習に取り入れていく。</li> <li>・目的や意図に応じ伝えたいことを明確にしていくよう習慣づけを図る。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。</p> <p>○説明文において、叙述を基に文章全体の構成を捉えることについては、平均を上回っている。</p> <p>●登場人物の心情について、描写を基に捉えたり、意見や感想を共有し、自分の考えを広げたりする力については、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の様子や情景を基に心情を捉えられるようにして読み取りを進めていく。</li> <li>・児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図っていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	国土の自然環境などの様子	72.6	71.6	67.5
	農業や水産業	79.0	81.5	82.1
	工業生産	75.3	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	77.8	77.2	68.2
	日本の政治	73.1	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	54.6	62.0	65.8
	知識・技能	71.4	74.6	74.5
	思考・判断・表現	64.1	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

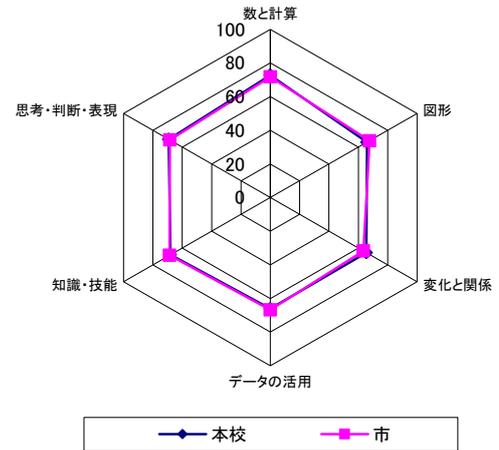
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>本校の全体的な平均正答率は、市の結果よりも約4ポイント上回っている。</p> <p>○日本の周辺の海洋名や地形の名称などについて答える問題は、市の平均正答率と同等であることから、よく理解できていることがわかる。</p> <p>●記述式の問題では、資料に着目して、森林の働きを捉え表現する問題において6.7ポイント下回っており、理解不足である。</p>	<p>・資料の読み取りや活用については、よく理解している児童が多いが、生活の中で、日頃から地図を見る機会を増やしていき、地理的知識の習得を図っていく。</p> <p>・答えを文章で記述することを求められる問題においては、資料を見て根拠を示しながら、書く指導を続けることで書く力の定着を図る。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均正答を1.5ポイント下回っている。</p> <p>○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、センターエレベータについて理解している。</p> <p>●地産地消の取組の理解不足であることが分かる</p>	<p>・資料から読み取れる内容を整理し、そこから何が考えられるかを導き出すような、思考力を問う問題を扱うとともに、分かったことを説明する機会を増やしていく。</p> <p>・地産地消については、学校給食においても取り組んでおり、改めて児童へ周知するとともに家庭へも広める工夫を図る。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている</p> <p>○自動車工場の作業工程の理解や日本の輸出品の資料の読み取りについては、市の平均と同等である。</p> <p>●キャリアカーと船に着目して自動車の出荷の工夫を捉え、表現する設問に対し、平均正答率が市の平均を10.3ポイント下回っている。</p>	<p>・自動車工場の見学や体験授業など、実際に目にしたり触れたりする活動を通して、児童が知識や理解を得ることができるよう、工夫する。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均正答率と同等である。</p> <p>○資料に着目してコンビニエンスストアの発注システムについて捉え判断する力が身に付いている。</p> <p>●マスメディアの特徴を問う問題では市の平均を下回った。</p> <p>●情報ネットワークの仕組みにおいて、正しい受け取り方を問う問題では、市平均を若干下回った。</p>	<p>・情報機器の種類や操作の方法については、日頃から様々な情報機器を使用することに加え、多くの資料に触れることを通して、出題に慣れていくようにする。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均正答率と同等である。</p> <p>○基本的人権の尊重について、生活の中の事例に基づいて判断することができている。</p> <p>○税金や政治の仕組みを理解している割合が高い。</p> <p>●日本国憲法における天皇の地位について理解できている。</p> <p>●裁判のしくみや国会の働きについて理解不足である</p>	<p>・国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割や日本国憲法などの内容を理解し、自分の言葉で解説するなどして定着を図るようにする。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均正答を1.5ポイント下回っている。</p> <p>○平清盛や源頼朝の問題については、市平均並みである。</p> <p>●鎌倉時代について、資料を読み取ったり、年表を読み取ったりする力が市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●室町文化の特徴について捉え、共通点を判断する問題が理解不足である。</p>	<p>・歴史的な事実をしっかりと覚え、それぞれの出来事が相互に関連していることをよく理解できるようにする。</p> <p>・歴史上の出来事について、キーワードとなる言葉を中心に、関係している人物も含めて説明できるようにする。</p>

# 宇都宮市立西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.7	71.8	76.2
	図形	65.9	67.7	67.8
	変化と関係	65.4	63.4	62.7
	データの活用	66.0	66.7	61.5
観点別	知識・技能	68.0	68.6	70.7
	思考・判断・表現	69.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

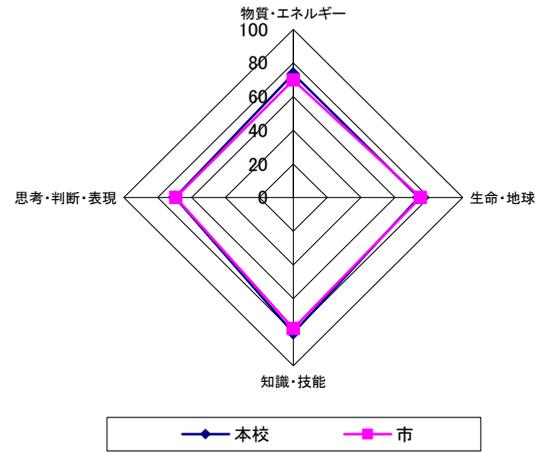
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、ほかの領域よりも高く、市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>○文字式の問題において、式が表す場面を選んだり文字の値を求めたりする力が身に付いている割合が高い。</p> <p>●少数のかけ算、わり算とともに、正答率が市の平均を下回っている。</p>	<p>・前学年の履修事項の定着について、レディネステストを実施し把握した上で学習に入る。</p> <p>・小数・分数の計算の仕方について再度指導するとともに、計算ドリルや復習プリントを活用し、計算技能の定着を図っていく。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均より1.8ポイント下回っている。</p> <p>○線対称、点対称の問題で市の平均を上回っている。</p> <p>●三角形の面積や直方体の体積を求める問題や、三角形の展開図から見取り図の辺の長さを読み取る問題において、市の平均を下回っており課題が見られる。</p>	<p>・公式を中心に面積や体積の求め方について復習し、図から底辺に当たる部分や高さに当たる部分などをスムーズに読み取ることができるように、図形の見方に慣れさせていく。</p> <p>・展開図や見取り図の見方について理解が深められるよう練習問題を繰り返したりして、内容の定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>本校の平均正答率は、市の平均より上回っている。</p> <p>○速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直すことができる。</p> <p>○図から、面積と数の割合を求め、どのウサギ小屋が最も混んでいるかを考察している。</p>	<p>・単量当たりの大きさや速さの学習や割合の学習内容については、5年生の学習時に重点をおいて指導するとともに、理解が深められるように、練習問題を積み重ね定着を図っていく。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の平均と同等である。</p> <p>○必要な正しい情報を選んだり帯グラフを読み取って説明する問題の正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>●折れ線グラフの読み取りは、市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・記述式の回答法について、普段の授業から子供たちが自分の考えをノートにまとめたり、自分の言葉で授業のまとめをしたりする日々の積み重ねによって、力を身に付けさせていく。</p>

# 宇都宮市立西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.5	69.9	67.8
	生命・地球	74.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	80.5	77.8	78.4
	思考・判断・表現	69.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>校内の平均正答率は、市の平均よりも3.6ポイント上回っている</p> <p>○ふりこのきまりの問題では、ふりこのきまりから、実験の方法を推測する問題の正答率が市の平均より12.5ポイント上回っている。</p> <p>○物の溶け方の問題では、食塩とミョウバンの溶け方の理解度が高い。</p> <p>○水溶液の性質をよく捉えることができている。</p> <p>●電磁石が鉄を引きつけたり放したりできる理由を問う問題では市正答率を9.3「ポイント、下回っている。</p> <p>●ふりこのきまりの問題では、1往復する時間と振幅の関係を知らべるための対照実験を計画するための選択肢を選ぶ問題で、誤回答が多い</p>	<p>・視覚に訴えたり体験的に学習を進められるようにし、理解を深められるようにしていく。また、プリント学習等を通して、繰り返し復習できるようにする。</p> <p>・実験を行う際には、何と何を比較するための実験なのか、何を明らかにしたのかなど、実験のねらいを明確にし、繰り返し説明をしながら進めるとともに、実験結果から何が言えるのか考察させる。</p> <p>・理科的な表現力を高めるために、言葉の意味を丁寧に捉えさせたり、プリントへの記述や発表の場を設けたりすることで表現を繰り返し練習し、基礎的な語彙力として定着するよう支援していく。</p> <p>・物が燃える時には酸素の一部が使われることを理解しているか確かめる問題の誤答では、「酸素がすべて使われる。」が多かったことから、問題文の正確な読み取りとともに授業での理解が十分でなかったことが考えられる。今後もまとめの場面を充実させるとともに、文章や言葉の使い方、正確な読み取り方や聞き取り方についても繰り返し触れていくようにする。</p>
生命・地球	<p>校内の平均正答率は、市の平均よりも1ポイント低い。</p> <p>○植物のつくりとはたらきの問題は、市の平均正答率を大きく上回っており定着していることが分かる。○月と太陽の問題では、位置関係のモデルから月の形や時刻を推測する力が身に付いている。</p> <p>●生物とかんきょうの問題では、食物連鎖についての回答が市正答率を下回っている。</p> <p>●植物の発芽と成長の問題では、対照実験の誤りを指摘したり実験の操作の改善を提示したりする回答の正答率が市の平均を下回っている。</p>	<p>・月や太陽に関連する問題では身近な問題として取り上げることが可能なので、テレビの情報や新聞等を継続的に活用するなどして視覚に訴え、理解を深めるようにしていく。</p> <p>・実際に触れることができない内容については視覚教材を充実させるとともに、画像や情報から読み取れることやそれらを結び付けた考え方などに触れられるように、考察の場面を十分に確保していく。</p> <p>・植物の発芽や成長の問題については、実際に目で確認すること以外に、ICT教材で経過を見るなど経過が分かりやすい視覚教材を利用しようと思う。</p>

## 宇都宮市立西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	少人数指導、TT指導など学習形態を工夫することで個に応じた学習の定着を図っている。タブレット端末による学習を導入し、各自の進度に合わせて学習に取り組ませて着実な定着を図っている。パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい内容や必要である学習内容を担任以外の教員が支援することで、少人数での指導を継続している。	勉強が好きと答える児童も多いが、あまり好きでない児童も少なくない。宿題や自主学習は、6年生の望ましい設定時間が70分となっているが、取り組み方には個人差が見られる。 授業が分かると自覚している児童も多く、基礎基本の定着が図られている。今後も、パワーアップタイムにて計算ドリル等、学種の基礎基本に継続して取り組ませていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分の考えと比べながら聴く時間を確保したりしている。ペアやグループでの話し合いなど、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	グループでの話し合いに進んで参加することについては市の平均を下回っている。しかし、児童の様子を見てみると、ペアやグループでの話し合いにおいて、対面形式はもちろんタブレット端末を効果的に活用した話し合いなど、多様な取組を展開してきた。今後も、話し合いの機会を多く設定し、根拠をあげながら話せるよう、継続して取り組んでいきたい。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の意見から考えを深めたりできる指導に努めている。	学習課題を明確にし、児童に理解させたくうえで把握させ、授業を展開するよう努める。 授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の定着は、個人差が大きい。次年は個に応じた学力の向上を図るべく、習熟度別学習や少人数指導、パワーアップタイム等の個に応じた指導法を工夫し、保護者と連携し家庭学習の習慣を定着させる。
- ・学校課題である「主体的」「対話的」で「深い学び」につなげる話し合い活動では、引き続き授業の様々な場面で教科の特性を生かしながら、ペアやグループでの話し合いに加えて、学級全体で児童同士が自分の考えを広げたり深めたりできるような授業を展開する。
- ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもって発表し、苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める児童の育成に努める。
- ・授業のまとめについては、本時の課題に対して自分の言葉でまとめることで、学習したことの理解を深めていけるようにする。また、振り返りは、短期目標や長期目標に応じて個人内評価を行い、児童自身が変化や成長を感じられ次時への意欲付けが図れるように活用する。